

## 街道の軌跡



街道は人や荷物が通るだけでなく、神々もまたここを去来したのである。村の入口には道祖神・石地藏・二十三夜塔などを祀って厄神が侵入するのを防いだ。村の中には、伝説に語りつがれてきた庶民の神々がある。塔寺の茶碗塚地藏・坂の下の夜泣地藏・船窪の北向き地藏などはこのような神であった。

神仏の伝説には、その発祥を古代に溯って説くものが多い。高寺山伝説もこのような伝説のひとつで、壮大な会津の仏教文化発祥伝説となっている。欽明天皇元年梁国の僧青巖が庵を結んだのが始まりといわれ、舒明天皇の時代南岳慧慈の弟子惠隆がこれを継ぎ「高寺三千坊」と呼ばれる程の坊舎を擁しておおいに栄えたという。

この流れをくむ惠隆寺本尊木造十面千手観音立像は立木観音とも呼ばれ八丁の巨体に二十八部衆風雷神を従えた様は畏怖さえ感じさせる。会津に二例を数えるだけの純和様の

観音堂は立木観音の巨体を祀るにふさわしく、直径一メートルの円柱のうえに大斗・平二斗を備え、板壁・茅葺き・寄せ棟の大堂である。観音堂・本尊ともに鎌倉時代初頭の作と考えられ重要文化財になっている。西会津町鳥追い観音・新鶴村中田観音とともに会津三観音のひとつで、信者の参拝は絶えることがない。

観音堂の西二百メートルには心清水八幡神社がある。この神社は代々の領主の信仰熱く、会津総鎮守でもあった。その起源を尋ねると、源頼義が奥州安部頼時追討の時山城の国から石清

水八幡を勧請したに始まるといわれ、重文「塔寺八幡宮長帳」をはじめ数々の宝物が納められている。

旧越後街道から北四丁程の高寺山麓には宇内薬師がある。会津五薬師の西方薬師でこれにも高寺下ろしの伝承がある。本尊薬師如来は重要文化財、櫻の一木造りで像高一メートル七寸。会津中央薬師である勝常寺薬師如来に次ぐ古仏で、堂内には薬師如来の眷属である十二神将などの仏像が納められている。ここには重要民俗資料としての元禄時代に奉納されたたくさんの絵馬がある。



# 街道に残る信仰の跡



塔寺には高寺山三十六坊と呼ばれる坊(修業所)があり、「高寺山仏教」と称された仏都会津の発祥地である。重要文化財の一木彫立木観音像や宇内薬師如来坐像は、今もたくさんの人々の厚い信仰を集めながら、決して色褪せることなく、静かに輝きを放ちつづけている。

- ① 村の入口に立つ地藏尊
- ② 会津五薬師のひとつ宇内木造薬師如来坐像(国指定重要文化財)
- ③ 宇内薬師脇侍、月光菩薩像(県指定文化財)
- ④ 宇内薬師脇侍、日光菩薩像(県指定文化財)
- ⑤ 宇内薬師堂
- ⑥ 千手観音脇侍、二十八部衆
- ⑦ 木造千手観音立像(塔寺立木観音像)の右側御手(国指定重要文化財)